

令和7年度

無線LAN利用者実態調査

概要版

調査方法 : Webアンケート調査（マクロミル社モニタ）

調査期間 : 2026年2月16日～2月26日

調査対象 : 日常的に無線LANを利用している者（年代・居住地域に偏りなく割付）

有効回答数 : プレ調査 10,000件・本調査1,000件

単数回答の回答割合の合計は、四捨五入の関係で100%にならない場合がある。

マクロミル
調査モニタ
(約133万人)

プレ調査 (スクリーニング調査)

15歳～92歳
のモニタ
(1万ss)

本調査

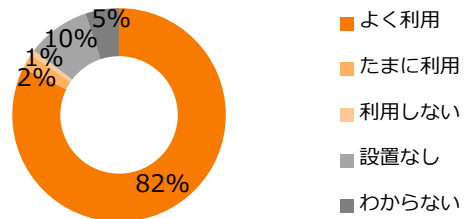
プレ調査回答者から年代×エリアで割り付け

15歳～19歳	20	20	20	20	20	20	20	20
20歳～29歳	21	21	21	21	21	21	21	21
30歳～39歳	21	21	21	21	21	21	21	21
40歳～49歳	21	21	21	21	21	21	21	21
50歳～59歳	21	21	21	21	21	21	21	21
60歳～	21	21	21	21	21	21	21	21

■ 中国 ■ 中部 ■ 九州, 沖縄 ■ 北海道 ■ 四国 ■ 東北 ■ 近畿 ■ 関東

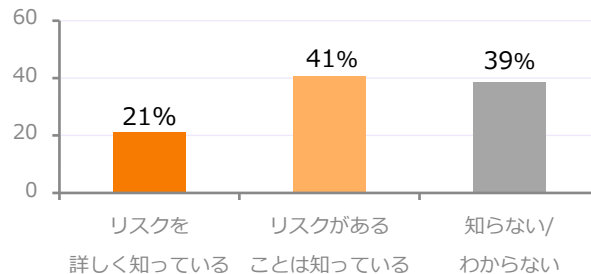
無線LAN利用者実態調査① 自宅に設置する無線LANについて (1/2)

自宅無線LAN 利用有無 (n=10,000 : 全員)



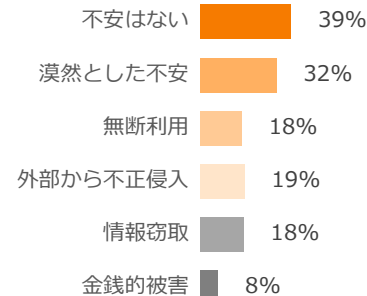
「よく利用」が82%と利用率は極めて高い

セキュリティリスク認知 (n=10,000)



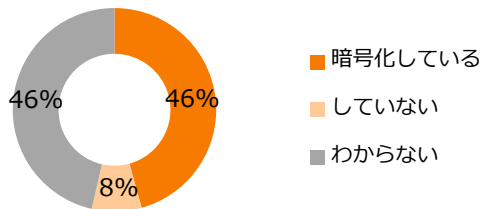
「リスクを詳しく知っている」が21%にとどまった

セキュリティ上の不安 (n=957, 複数回答)



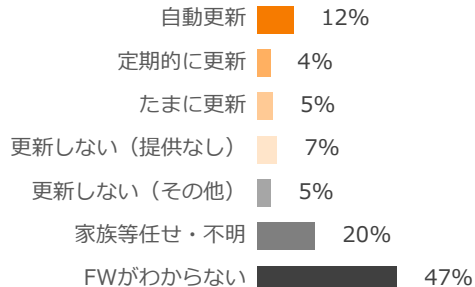
「不安はない」が39%で最多となった

暗号化の有無 (n=957)



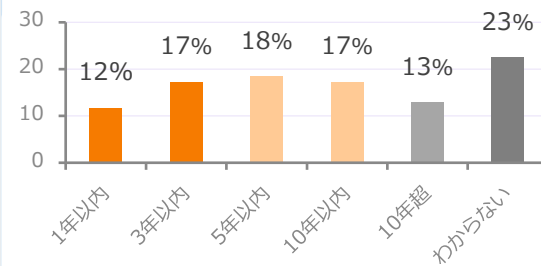
「していない/わからない」が合計で54%となった

ファームウェア更新 (n=957)



「FWがわからない」が47%で他と比較して突出して高い

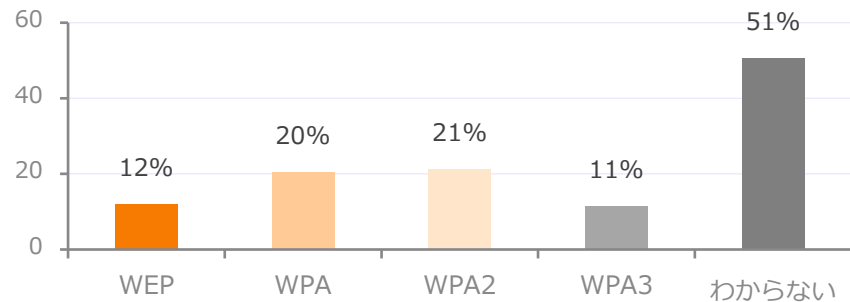
購入時期 (n=957)



「わからない」が23%にとどまった

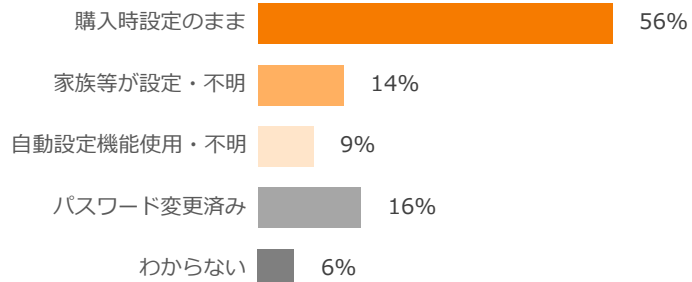
無線LAN利用者実態調査② 自宅に設置する無線LANについて (2/2)

暗号化セキュリティ方式 (n=437 : 暗号化利用者, 複数回答)



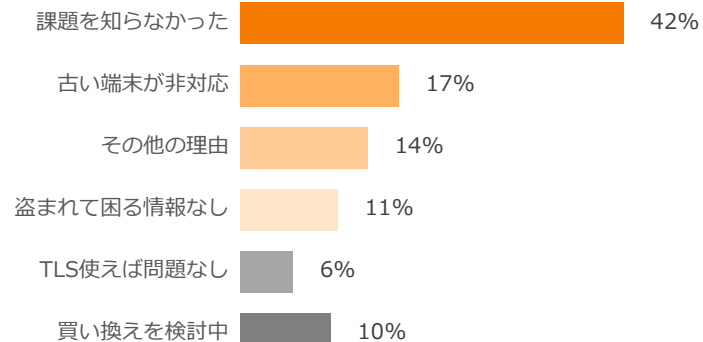
「わからない」が51%で他と比較して突出して高い

暗号化パスワード設定 (n=437)



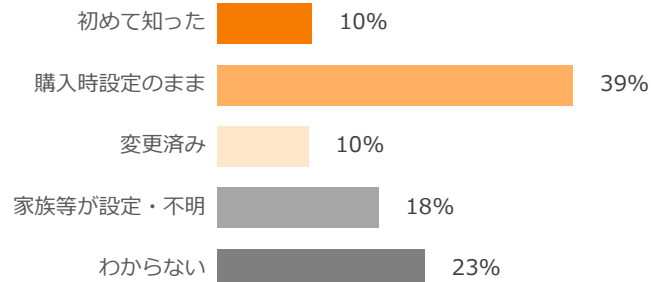
「購入時設定のまま」が56%で他と比較して突出して高い

WEP/WPA利用理由 (n=121)



「課題を知らなかった」が42%で最多となった

管理用パスワード設定 (n=957)



「購入時設定のまま」が39%で最多となった

無線LAN利用者実態調査③ 公衆無線LANの利用について（1/4）

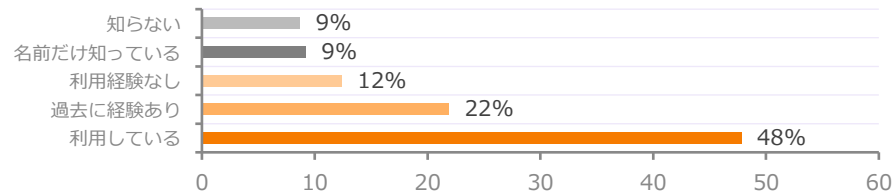
48%

公衆無線LAN利用者
(n=10,000)

65%

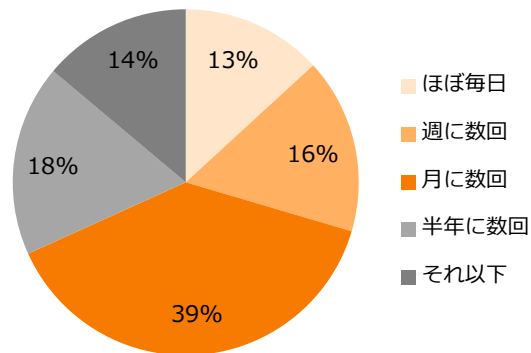
未利用理由1位
「セキュリティ上の不安」
(n=3,432)

公衆無線LAN 認知・利用状況（n=10,000）



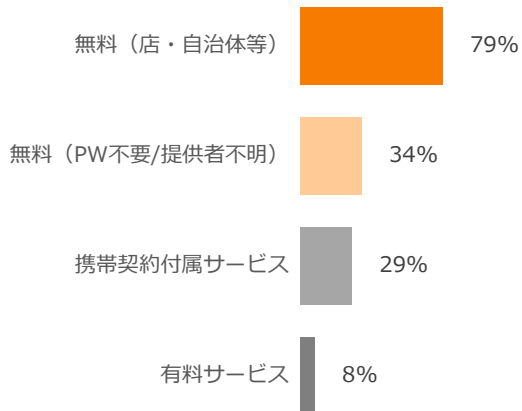
「利用している」が48%。自宅無線LANの利用率（82%）と比較して低い

公衆無線LAN利用頻度（n=532）



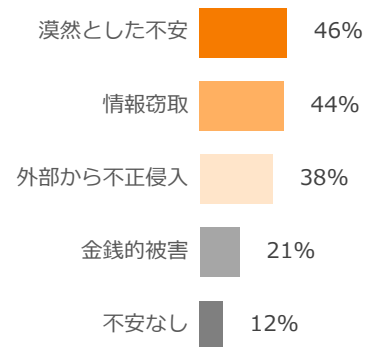
「月に数回」が39%で最多となった

利用サービス種別（n=532、複数回答）



「無料（店・自治体等）」が79%で他と比較して突出して高い

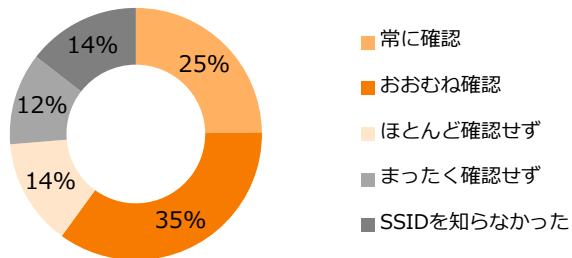
公衆無線LANのセキュリティ不安（n=532、複数回答）



「漠然とした不安」が46%で最多となった

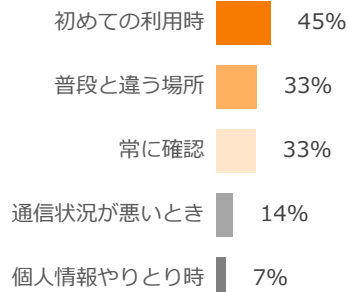
無線LAN利用者実態調査④ 公衆無線LANの利用について（2/4：SSID確認）

SSID確認状況（n=532）



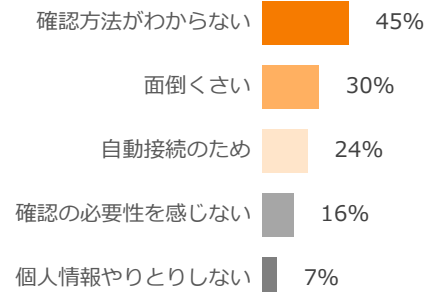
「常に確認/おおむね確認」が合計で60%となった

SSID確認場面（n=319, 複数回答）



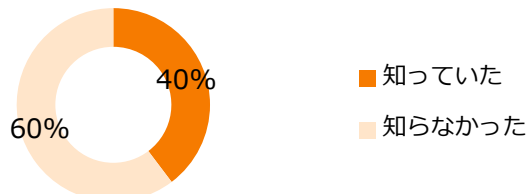
「初めての利用時」が45%で最多となった

SSID確認しない理由（n=136, 複数回答）



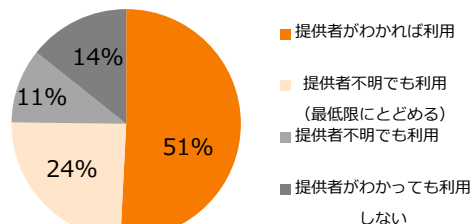
「確認方法がわからない」が45%で最多となった

偽アクセスポイント問題の認知（n=532）



「知らなかった」が60%。
過半数が偽アクセスポイントの問題を認知していない

PW不要無線LAN発見時の利用（n=532）



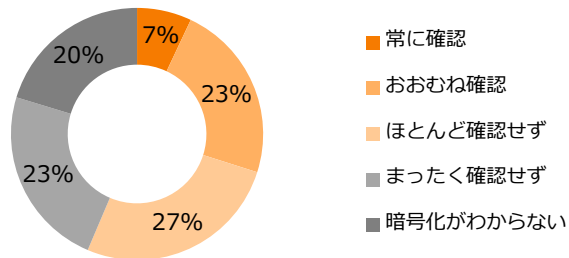
「提供者がわかれば利用」が51%で最多となった

ポイント

- SSID確認状況を「常に確認/おおむね確認」と回答した60%の層のうち、45%がSSID確認場面について「初めての利用時」と回答している
- SSID確認を「ほとんど確認せず/まったく確認せず」と回答した25%の層のうち、45%が確認しない理由について「確認方法がわからない」と回答している

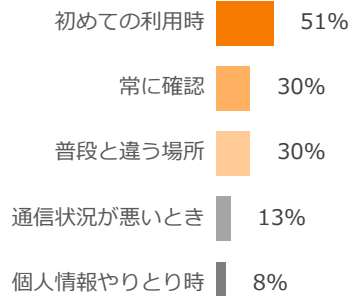
無線LAN利用者実態調査⑤ 公衆無線LANの利用について (3/4 : 暗号化確認)

暗号化確認状況 (n=532)



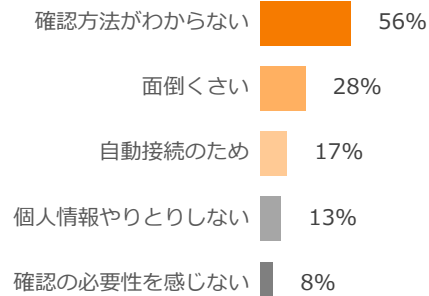
「常に確認/おおむね確認」が合計で30%にとどまった

暗号化確認場面
(n=159 : 暗号化確認者, 複数回答)



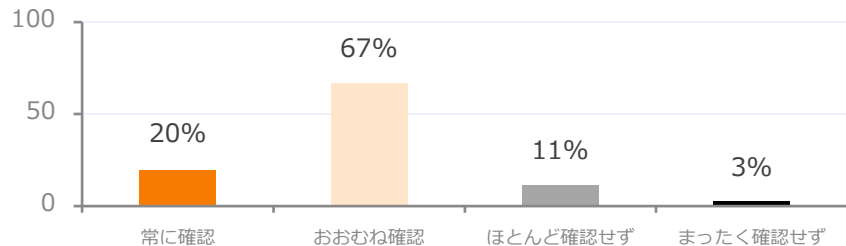
「初めての利用時」が51%で過半数となった

暗号化確認しない理由 (n=265, 複数回答)



「確認方法がわからない」が56%で最多となった

暗号化方式 (WPA等) まで確認しているか (n=159 : 暗号化確認者)



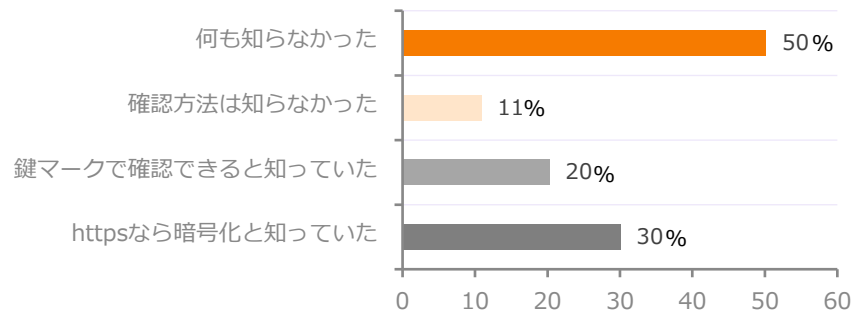
「常に確認/おおむね確認」が合計で87%となった

ポイント

- 暗号化を「常に/おおむね」確認すると回答した30%の層では、暗号化方式 (WPA等) についても、87%が「常に/おおむね」確認すると回答している
- 暗号化を「ほとんど/まったく」確認せずと回答した50%の層の半数以上が、暗号化確認しない理由について、「確認方法がわからない」と回答している
- 「暗号化がわからない」と回答した20%の層は、暗号化という概念自体に関する知識が十分でないと考えられる。基礎的な知識理解の底上げが課題である

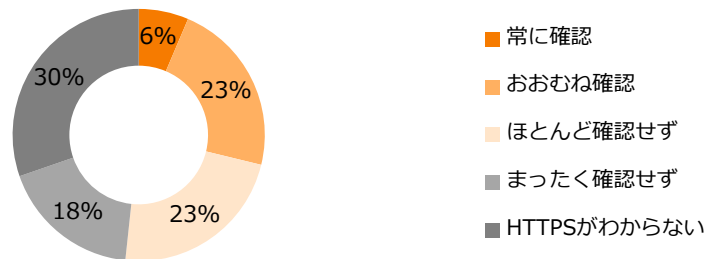
無線LAN利用者実態調査⑥ 公衆無線LANの利用について（4/4：HTTPS通信確認）

HTTPS通信の認知状況（n=532，複数回答）



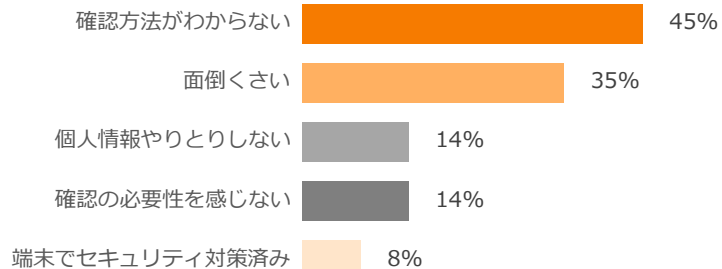
「何も知らなかった」が50%で最多となった

HTTPS通信確認状況（n=532）



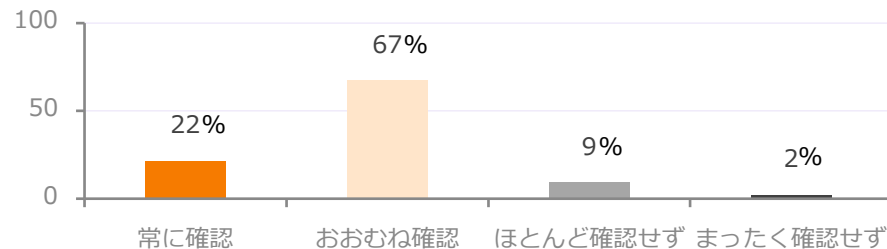
「HTTPSがわからない」が30%で最多となった

HTTPS確認しない理由（n=218，複数回答）



「確認方法がわからない」が45%で最多となった

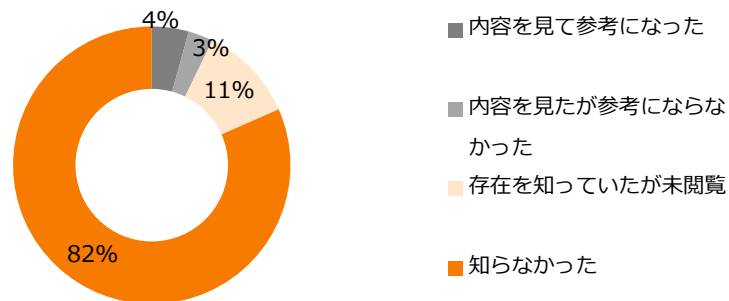
ドメインまで確認しているか（n=153：HTTPS確認者）



「常に確認/おおむね確認」が合計で89%となった

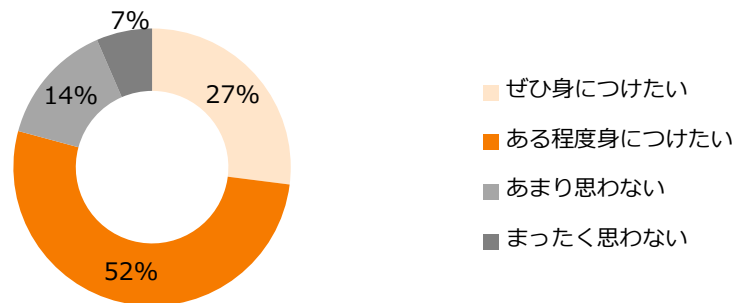
無線LAN利用者実態調査⑦ セキュリティ知識・啓発ニーズ

Wi-Fi利用者向け簡易マニュアル認知 (n=1,000)



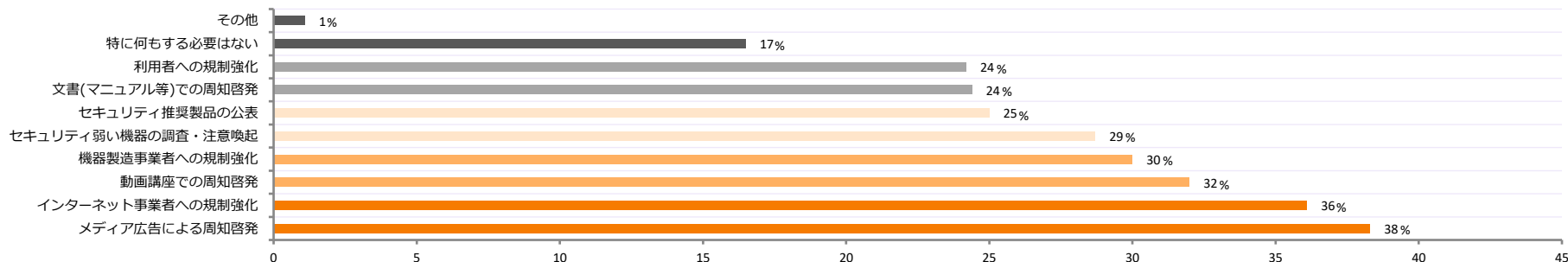
「知らなかった」が82%で他と比較して突出して高い

セキュリティ知識習得意欲 (n=1,000)



「ある程度身につけたい」が52%で最多となった

国が進めるべき無線LANセキュリティ取組 (n=1,000, 複数回答)



「メディア広告による周知啓発」が38%と最多。次いで「インターネット事業者への規制強化」が36%となった

主要調査結果まとめ

令和7年度 無線LAN利用者実態調査

自宅無線LAN普及は高水準・セキュリティ対策は低水準

自宅利用率は82%と高普及。一方で「FWがわからない」が47%、「暗号化がわからない」が46%と、普及に対してセキュリティ対策の理解・知識の浸透が追いついていない実態となった。

公衆無線LAN未利用の最大理由は「セキュリティ上の不安」

公衆Wi-Fi未利用者の65%が、利用しない理由として「セキュリティ上の不安」を挙げており、他の理由を大きく引き離して最も多い結果となった。

公衆無線LAN利用者の暗号化・HTTPS確認の実施率が低い

SSIDの確認を行う利用者が60%であるのに対し、暗号化の確認は30%、HTTPSの確認は29%と、いずれも低水準である。暗号化・HTTPSともに、未確認の主因は「確認方法がわからない」であり、利用者に対する具体的かつ実践的な情報提供の強化が求められる。

偽アクセスポイントの認知率は40%にとどまる

偽アクセスポイントの問題については、60%が「知らなかった」と回答した。公衆無線LANの提供者不明でも接続する利用者も35%存在しており、セキュリティリスクに対する認識や感度の低さが懸念される結果となった。